

学部・研究科等の現況調査表

教 育

平成22年6月

長岡技術科学大学

目 次

3. 技術経営研究科

3 - 1

3. 技術経営研究科

Ⅱ	分析項目ごとの水準の判断・・・・・・・・	3－2
	分析項目Ⅴ 進路・就職の状況・・・・	3－2

Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

1 【就職後の職務変化にみる産業界の評価】

本専攻は、平成 21 年度末までに合計 44 名の修了生を様々な産業界と地域に輩出した(資料Ⅱ-V-1、Ⅱ-V-2)。彼らはシステム安全に関する体系的、横断的な知識を有する専門家として、所属企業では安全関連業務を統括する部署へ異動するなどしており、また、業界レベルの安全基準策定などにも活躍している。電機大手企業M社の学生は本専攻の学位取得と同時に課長職に昇進し、従来からの担当分野だけでなく、事業所全体の製品安全を担当することとなった。ある 2 期生は入学 1 年後にして社内の製品安全に関する業務を統括する部署に移動となっている。また、自動車業界に勤務するある 2 期生は、本学修了後、政府に新設された消費者庁の調査専門職員へと転身した。国際的安全審査認証機関を含む多数の企業から、「システム安全の新卒者を採用したい」との問い合わせも寄せられている。労働安全衛生法改正によるリスクアセスメントの義務付け(平成 18 年 4 月施行)など、システム安全の専門家に対する需要は急速に高まっているが、国際水準の知識と実務能力を有する安全専門家は依然としてほとんどいない。こうした中で、日本で唯一のシステム安全教育プログラムとして本専攻は高い評価を受けている。

2 【マスメディアからの関心と評価】

本専攻はシステム安全に関する日本初の教育プログラムであるため、開設前からマスメディアの注目を浴びていた。開設後も、人気経済番組「ワールドビジネスサテライト」の安全特集で本専攻の授業風景が特集されるなど、大きな関心が寄せられている(資料Ⅱ-V-3、資料Ⅱ-V-5)。

3 【修了生、在校生、受験生による評価】

修了生、在校生とともに学期末におけるアンケート調査において満足を表明している(資料Ⅱ-V-4)。同一企業からの継続した入学希望者があるのは、こうした満足の現れである。産業界のみならず、厚生労働省、原子力安全・保安院、海上保安庁、自治体の危機管理要員など、公的セクターからも入学者がある。

4 【修了生が難関資格であるシステム安全エンジニア資格を取得】

平成 21 年 3 月に「システム安全エンジニア資格認定制度」が創設され、第一回試験が実施された(資料Ⅱ-V-5、Ⅱ-V-7)。この資格は広範囲の試験科目をカバーする難関資格であるが、本専攻の修了生 6 名が合格し、認定された。

5 【安全安心社会研究センターの開設】

本学は平成 20 年 4 月に「安全安心社会研究センター」を設置した。同センターは、第一線で活躍するシステム安全専攻修了生のネットワークを活用することとしており(資料Ⅱ-V-6)、同センター客員研究員に任命された修了生は、所属企業の立場を離れ、第三者の安全専門家として既に各種セミナー講師などとして高い評価を得ている。

6 【高専からの高い関心】

高専生からも本専攻の教育内容について大きな関心が寄せられており、本学が提供している幾つかの安全関連 e ラーニング科目に対する受講生は著しく増加している(資料Ⅱ-V-8)。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る。

(判断理由) 前項で述べたように、学生の所属企業、マスメディア、学生自身、本学の工学部在学学生、高専などからいずれも高い評価を得ており、新しいシステム安全エンジニア資格制度、本学安全安心社会研究センターの活動とあいまって、修了生は社会的に大きなインパクトを与えていると言え、期待される水準を大きく上回る活躍をしている。